

見守り活動に関する研修会



福井県立大学
看護福祉学部教授
奥西 栄介氏

講師 福井県立大学看護福祉学部

教授 奥西 栄介氏

開催日 令和3年12月6日(月)

参加者 79名

地区社協役員の方々を対象とした見守り活動に関する研修会を開催し、コロナ禍によって大きく様変わりした地域福祉活動のあり方について考えました。



講師からは、福井市社協が住民と共に策定した「第4次地域福祉活動計画」の内容に触れながら、一方的な支援する側、される側という関係だけでなく、助け上手、助け

られ上手につながる「受援力」という考え方など、今後の地域福祉活動につながる考え方についての話がありました。その後、参加者で「担い手不足・高齢化に関すること」や「福祉への意識・関心に関すること」などのテーマに分かれてグループワークで話し合いを行いました。

参加者からは、「特別な意識ではなく、普段のお付き合いの延長上にある支え合い、助け合いという事が当たり前に出来る地域にしていきたい」「地域での協力を得られるよう、地区社協の取り組みを知ってもらえるよう努めたい」などの感想が聞かれ、人と人とのつながりの大切さを再確認できました。

コロナ禍のため、様々な地区が顔を合わせて意見交換をする久しぶりの機会でもあり、改めて日頃の、あるいは今後の地域福祉活動について考えるきっかけとなる研修会でした。



連絡会を オンラインで 開催しました



令和4年2月から3月にかけて、福井市地区社協連絡協議会連絡会を3回に分けZoomを活用したオンラインで開催しました。

当初は参集で開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大のため、急遽オンラインでの開催となりました。オンラインという形ではありませんでしたが、Zoomを活用することで、直接情報共有や意見交換をすることができる場となりました。

今回は、市社協から令和4年度から取り組まれる第4次地域福祉活動計画や、来年度の福祉委員の改選についての説明などが主な内容でした。

コロナ禍によって思うような活動がままならない状況が続いていますが、オンライン会議の導入など、新たな取り組みにもチャレンジしつつ、今後も形態を工夫して地区社協連協としての活動を継続していきます。

